

成果指標				
成果指標	伐倒材積 × 計画材積 × 100			
指標設定の考え方	森林整備計画に定める計画材積と伐倒材積を測定することにより効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	100	100	0	0
実 績	100	100	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	枯損木伐倒すべき材積が増加している。山林保全の観点から伐倒駆除事業の継続が必要と思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	松枯れの原因となるマツノザイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリの幼虫を駆除する伐倒駆除・薬剤くん蒸事業は、被害拡大防止のため非常に効果的であり、引き続き適切に実施する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題